

TRANSITION TO HEALTH (112)

“ 新型コロナウイルス感染 ③ ”

～ ワクチンで英国小児コロナ死300倍、アスリートの突然死？ ～

ワクチンは・・・「接種すればするほど**感染**しやすく、**死亡**しやすい！！」

GW が明けて2週間余りが経過したが、今のところ感染拡大の兆候は見られていない。このまま規制緩和が進み、感染が収束し（→さらに終息）、4 回目接種の話が消えてなくなればよいのだが、そう簡単にはいかないであろう。2009 年の似非パンデミックの時とは違い、今回の（似非？）パンデミックには、もうひと山も二山もありそうである。

右図（上）は4月1日時点の世界145か国のワクチン接種完了率別の人口10万人当たりの新規感染者数のグラフである。接種完了率80%以上の28か国の新規感染率は、接種完了率20%未満の32か国の70倍以上である。どの時点（月日）で集計しても、「**接種すればするほど感染しやすい**」ことに変わりのない事実（FACT）である。また、今年1月26日、米国のFOX NEWSでは「**ブースター接種した国ほど感染率が高く深刻な病気や死亡率も上昇!**」と真実・事実（FACT）を伝えていた（右表・中）。ところが、日本のマスメディアは相変わらず、製薬業界およびそれと利害関係を有する医学界や厚労省、WHO や CDC などに忖度してか（個人的見解）、ワクチンに関する事実（FACT）やマイナス情報を一切伝えていない。

コロナ死亡の99.56%が接種済み（カナダ最新データ）

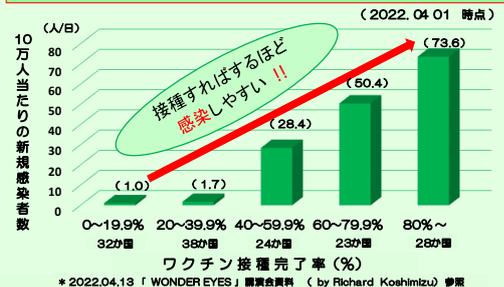
右表（下）は、カナダの直近のデータであるが、ワクチンを1回以上接種した人は約3,270万人、全国民の86.1%を占めていた。感染者数に占める接種者の割合は88.5%と高く、入院者数は81.0%であったものの、死亡者数では**接種者がなんと99.56%**も占めていた（未接種者はわずか0.44%）。

明らかにワクチン接種者は、少し**感染**しやすく、そして極めて**重症化**しやすく**死亡**しやすいことが判明した。

子供の原因不明の肝炎、急増している帯状疱疹はワクチン接種が原因か！？

右に5月下旬現在、ワクチン3回目接種完了者に起こっていることを表にしてみた（個人的見解）。NHK・民放各局などのマスメディアは伝えていないが、WEB、SNSで検索すれば、ノーベル賞受賞科学者、研究者、医師・看護師などの医療従事者が時に実名で、時に医師の集合写真を載せて切実に訴えているので、この「健康通信しずおか」を読まれてきた方々には納得いただけるであろう。原因不明の子供の**急性肝炎**は母乳中のスパイク蛋白のシェディング、卵巣にワクチン由来のスパイク蛋白が集積して**流産・死産・不妊症**、免疫力低下により**帯状疱疹・進行癌**。ワクチン接種で**寿命短縮**にまっしぐら。

ワクチン接種で感染拡大（対象：世界145か国）



ブースター接種した国ほど感染率が高く深刻な病気や死亡率も上昇!! 2022.01.26

「ワクチンが**全く効かない**ことが完全に明らかに」
「ブースター接種した国々は**感染率・病気・死亡率が上昇**」
「誰もワクチン接種を受けるべきではない!」
「これらの製品（ワクチン）は**撤回**されるべき」

カナダの直近データより (2022.5.23)

1回以上接種した人: 32,715,947人

	未接種者	接種者(全体)
人口割合	13.9%	86.1%
感染者数	11.5% ↓	88.5% ↑
入院者数	19.0% ↑	81.0% ↓
死亡者数	0.44% ↓	99.56% ↑

(ジャーナリスト Benjamin Fulford 氏提供のデータより解析)

接種者ほど死亡しやすい!

今、接種完了者に起こっている事、起こり得る事
血栓症と免疫不全に基づく（個人的見解）2022.05

- ① 血栓症 ⇒ 四肢の血管病変・皮膚炎・壊死など
- ② 狭心症・心筋梗塞・脳梗塞 (≡≡ 血栓形成)
- ③ うつ状態、うつ病 (自殺)
(スパイク蛋白が血液脳関門を通過し脳内に)
- ④ 自然流産 (スパイク蛋白が卵巣に集積)
- ⑤ 乳幼児の急性**肝炎**
(接種済母親の乳汁中スパイク蛋白のshedding)
- ⑥ **帯状疱疹** (ワクチンによる免疫力低下)
- ⑦ **癌**の発症・進行癌 (帯状疱疹の次は癌?)
(例年の2.0倍以上、いきなりStage 4)
- ⑧ **基礎疾患** (糖尿病・脳心臓血管疾患)の**重症化**

英国 ワクチン接種でコロナ死亡303倍 (10~14歳)、当局隠蔽? (2022.05.23)

右に掲げたのは、英国の国家統計局 (the Office for National Statistics) の公式データである。10歳~14歳の子どもの10万人当たりのワクチン接種状況別の年齢調整死亡率である。「未接種群」と「ワクチン3回接種後21日以上経過した群 (以後、「3回接種群」という)」の2つの群で比較してみよう。コロナ感染死亡は、未接種群では10万人当たりわずか0.33人であったが、3回接種群は10万人当たり100人で**303倍**も死亡率が高かった。コロナ感染以外の死亡率は、3回接種群は未接種群の**69倍**、コロナ死を含むすべての病気での死亡率も、3回接種群は未接種群の**82倍**も高くなっていった。今回の mRNA ワクチンは極めて危険で、ワクチン接種のみで死亡してしまうこともあれば、ワクチン

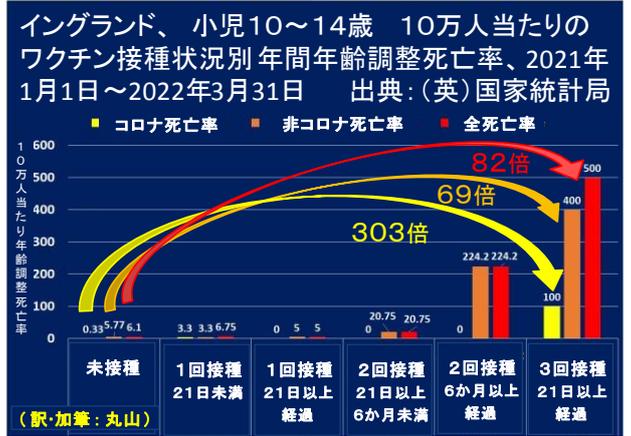
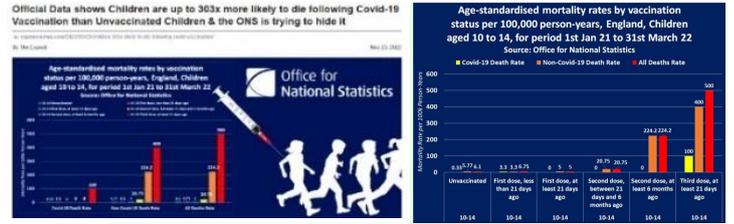
ンでできた抗体が感染・重症化を促進する ADE 抗体 (悪玉抗体) として働き、死亡率を高めていたのではないかと。また、ワクチン接種で免疫力が低下し、癌をはじめ、様々な病気での死亡率を上げていたのではないかと。ワクチン慎重派が「毒ワクチン」「殺人ワクチン」と揶揄する所以である。

英国当局はワクチンの危険性を隠蔽している?

Official Data shows Children are up to 303x more likely to die following Covid-19 Vaccination than Unvaccinated Children & the ONS is trying to hide it

BY THE EXPOSE ON MAY 23, 2022 the ONS: the Office for National Statistics

公式データによると子供はワクチン未接種よりも Covid-19 ワクチン接種後の方が死亡する可能性が最大で**303倍**も高い、そして国家統計局はそれを**隠蔽**しようとしている。 the ONS: 国家統計局



アスリート 683人 心停止・心臓突然死、ワクチン接種後に (2021.01~2022.05)

中日ドラゴンズの木下雄介投手が、昨年8月3日に亡くなった。彼は昨年7月6日練習中に突然意識を失い、心肺停止状態だったため病院に搬送され治療を受けていたが、ワクチン接種後36日目に亡くなった。また、昨年11月23日、湘南ベルマーレのオリベイラ選手は自宅寝室で倒れているところを発見された。急性うっ血性心不全であった。両名ともワクチンの副反応・心筋炎がきっかけとなった可能性がある (個人的見解)。アスリートの死としては、11年前の松田直樹さんの件が思い出される。当時はコロナパンデミック前であるが、以前からアスリートの心停止・突然死は度々起こっていた。右図は2021年以降に急増したアスリートの突然死を伝える報告の一部である。ワクチン接種開始後突然死が急増し、ワクチン接種による副反応死が強く疑われていた。これに対し、ワクチン推進派らは2009年「Circulation」に発表された論文『Analysis of 1866 Deaths in the United States, 1980-2006』等を引用し「Covid-19 ワクチンと突然死は無関係」と必死に否定してきた (右下図)。ワクチン接種で心筋炎が発生しうるとは、昨年5月に「JAMA Cardiology」に online 掲載されていた。米国の主要14大学中13大学のアスリート1,597人中37人



(2.3%) に「Covid-19 心筋炎」が発症、内9人が症候性28人が無症候性で、4人中3人は無症状であった。この無症状のアスリートが激しい運動をすると心停止に至ってしまうのかもしれない。**おわりに** Covid-19 ワクチンの接種は任意です。ワクチンを打たれた方の体内では、**スパイク蛋白**が秘かに増殖しているかもしれません。激しい運動をされる際には是非お気を付けください。これから3回目接種、4回目接種を、とお考えの方は真剣に考えて**ご自身**でお決めください。



TRANSITION TO HEALTH (理事長・医師 丸山正明)

